経済同友会 つながる▶▶▶

RELAY TALK #282

紹介者
白石 徳生
ベネフィット・ワン
取締役社長

峰岸 真澄
リクルートホールディングス
取締役会長 兼 取締役会議長

個の尊重

リクルートグループの「大切にする価値観」の中に「個の尊重」がありますが、最も当社らしさを表していると思います。同時にこれは私が個人的にも特に大切にしている言葉、考え方でもあります。英語では「BET ON PASSION」と意訳していますが、どんな事業も業務改善もイノベーションも個人のアイデアから。そのアイデアの源泉は従業員一人ひとりの情熱。そうした個人を尊重する価値観が「個の尊重」です。

リクルートの従業員は「会社への帰属意識」よりも、「自分のやりたいこと、成し遂げたいことにつながる仕事なのか？」「社会や生活の役に立ち、誰かの人生を良くする仕事なのか？」といった「仕事への帰属意識」が強い。ですから社外でチャレンジしたい仕事ができれば、独立や起業をして取り組む人も多くいます。一方、リクルートで再チャレンジをしたいと戻る人も珍しくありません。社外での失敗経験があるとしても、それは一番のケイパビリティになる。情熱を灯す仕事のステージに境目をつくらないのが理想です。

私は子どもの頃から「青年実業家になる」と言い続け、当社へも「リクルートで営業マネジメントのメカニズムを学んで３年で起業しよう」という気持ちで入社しました。ところが「個の尊重」を大切にする独特な企業風土の中、情熱がつぶされずに目の前の顧客の課題解決やプロダクト開発に夢中になるうちに、早30年以上。独立起業はまだしていませんが、数々のプロダクトを開発し、事業の再生や撤退などを経験してきました。オフィスで先輩に「これどうしたらいいんですか」と聞けば、「あなたはどうしたいの？」と返されるような風土で、常に自らの考えや思いを明確にすることが早くから叩き込まれていく。もちろん失敗することもありますが、若い頃の小さな舞台での失敗は、個人にとっても組織にとっても後に大きな舞台で役に立つ。

日本が再び活力ある経済成長を果たすためにも、成し遂げたいことへの情熱を持つ個人を尊重する風土が、もっと日本社会で高まるように経営者として支援していきたい。そのことは、生活者一人ひとりの主体的な選択を支援することでもあり、「生活者共創社会」実現への近道ともなるはずです。

▶▶次回リレートーク

杉田 浩章
ボストン
コンサルティング グループ
マネージング・ディレクター
＆シニア・パートナー